

令和8年度の予算編成方針

令和8年度予算編成に向けて

摂津市長 嶋野 浩一朗

人口減少・少子高齢化が急速に進行することに加え、昨今の物価高騰による影響の中、本市の未来を見据えたまちづくりを進めていくためには、限られた財源の中で計画的な予算配分を行い、効率的な行政経営を進めていく必要があります。また、今後予定している大規模事業があり、直近の主要基金残高は大きく減少していくことが見込まれる中、私を含め、職員一人ひとりの「当事者意識」と「危機意識」が大変重要になります。

そのため、今年度には本市の財政運営の方向性を示した「摂津市中期財政計画」を策定いたします。この財政計画に基づき、予算執行内容が事業の実施目的と合致しているか、適切な手段・対象範囲・規模となっているのか等、変化していく社会情勢に対応すべく、事業をゼロベースで検討してまいります。

さて、令和8年度は本市市制施行60周年という節目の年を迎えます。これまで本市の目指す将来像である「みんなが育む つながりのまち 摂津」のもと、各部局で知恵と工夫を凝らし、60周年を彩る事業に取り組んでまいります。そして、今後も持続的に発展していくためには、これまで本市が歩んできた歴史に敬意を示しながら、この節目の年を新たな転換期とし、市民の皆様、市議会議員の皆様、関係機関と共に、“新たな摂津市”を紡いでまいりたいと考えております。

令和8年度予算編成においては、以上のことを念頭におきながら、財政計画に合致した予算規模を堅持しつつ、これまでとは別の手法やアプローチにより、本格的に本市のDXを推進していきます。現状の行政サービスを「できたらいいな」の視点で考え、自己否定からスタートする改革の精神のもと、市民一人ひとりの暮らしがより便利になる取組や新たな価値の創出、職員の業務効率化に係る取組など、未来への投資となる取組について重点的に予算化していくこととします。